

《NGO・外務省定期協議会 事前質問に対する回答》

平成 24 年 12 月 3 日
外務省国際協力局
国別開発協力第三課

1 モザンビーク ProSAVANA 事業の概要資料

回答:別紙をご参照ください。

2 影響を受ける人々に向けてこれまでどのように情報提供と合意形成をしてきたかが分かる資料

回答:

本件事業の中で、影響を受ける人々へのこれまでの情報提供の例は以下のとおりです。

(1)2009 年、JICA が実施した本事業の基礎情報収集確認調査において、日本・ブラジル・モザンビーク合同調査団¹で大中小農 20 農家程度へのヒアリングを行っております。

(2)また、現在、JICA は、開発調査型技術協力『ナカラ回廊農業開発マスタープラン策定支援』を実施中です。本事業の狙いは、ナカラ回廊地域の社会経済開発に資する農業開発マスタープランを策定するものです。この中で、影響を受ける人々への情報提供という観点で、ご参考情報は以下のとおりです。

・マスタープラン策定にあたって、各農家の活動を管轄する各郡の経済開発部は、策定プロセスに参画しております。

・本件マスタープラン策定支援においては、これまで、ステークホルダーミーティング²を、ナンプラにて 3 回、ザンベジア及びニアッサにて 1 回ずつ実施しました。ステークホルダーミーティングには、JICA(調査団)とモザンビーク中央官庁の農業省、農業省傘下の農業研究所(IIAM)、各州の農業局、財務局、計画局、等モザンビーク政府関係者に加え、各州の農民組織や NGO の参加も得て、情報提供や意見交換を実施しています。

¹参加メンバーは次の通り。日本: JICA、コンサルタント、モザンビーク: 農業省、農業研究所、企画開発省他、ブラジル: 援助庁、EMBRAPA(農牧研究公社)、農業普及技術支援公社、国立農村訓練サービス等

² ステークホルダーミーティングの参加者に関しては、ステークホルダー分析を行い、マスタープラン策定とその事業計画検討において、正・負・直接・間接の各影響を受ける関係者を分析の上、偏りが無いように参加者を募り意見交換を行います。

これまで、ナンプラで実施されたミーティングには、今回声明文は発した UNAC も参加しており、第 2 回目のミーティング(本年 11 月に実施)では、ご発言もいただき、直接の意見交換が行われました。

・さらに本年 8 月には、本件マスタープラン策定支援調査団の環境社会配慮担当者が UNAC へ訪問しており、JICA の環境配慮について、直接説明した事実もあります。

また、本事業の中で合意形成という観点からは以下のとおり認識しております。

上述のとおり、現在、まさにマスタープラン策定調査を行っており、モザンビーク政府から要請されている 3 州 14 郡の農業事情の全体の把握を進めているところです。これまで、ステークホルダーミーティング等を通じた対話を行ってきており、また、今後とも計画内容を詰めていく中で、必要に応じて市民社会ともよく意見交換・情報提供を行った上で合意形成を行っていく次第です。

3 モザンビークにおける食料危機克服の取り組みとこの事業の関係を示す資料

ご指摘のとおり、モザンビークの食料危機の現状は深刻で、最新の FAO の統計(HP)によると、モザンビークでは、人口の 39%にあたる、900 万人が栄養不良にあると報告されております。

モザンビークの食料危機克服のため、モザンビーク政府は 2006 年、食料安全保障の確保を政府の優先政策とすることを閣議決定し、モザンビーク政府の具体的な施策としては、以下のものがあると承知しております。

(1) 国家農業開発プログラム II(ProAGRI) 2006 年～2010 年

内容:①農業生産活動の活性化、②地方コミュニティ提案によるプロジェクトの推進、③農業開発ガイドラインの策定

(2) 食料生産行動計画(PAPA) 2008 年-

内容:2008 年 6 月の国際的な食糧価格の高騰に対処するために策定され、稲作を含めた総合的な食糧増産計画

(3) 農業戦略計画(PEDSA) 2011 年～2020 年

内容:「社会・ジェンダー平等を保障しつつ、食料安全保障および、競争力と持続性を持つ農業生産者の所得向上に貢献する」ことを戦略目標に掲げたもの

ProSAVANA 事業は上記の ProAGRI II 及び PAPA に整合するものとして位置づけられてマスタープラン策定等が進められております。また 2011 年に承認された PEDSA でも、PEDSA の趣旨に合うものとして回廊開発の中で位置づけられております。

(ご参考)

なお、我が国は、従来より、モザンビークの食料安全保障を確保する支援として、以下のような案件を実施してきました。

・食糧援助・貧困農民支援：

1976 年以降、ほぼ毎年食糧援助、貧困農民支援を実施してきており、その累計額は 290 億円以上。

・ショクエ灌漑システム改修(2002 年度～2003 年度、無償資金協力)

2000 年のリンポポ川の氾濫・洪水によって大損害を受けたショクエ灌漑システムの幹線水路 14Km を改修。

・ショクエ灌漑スキーム小規模農家総合農業開発計画(2007 年度～2010 年度、技術協力プロジェクト)

ショクエ灌漑地区において、二次・三次水路を管理する水利組合を通じた小規模農家に対する農業技術、灌漑施設管理の改善を目的とした支援。

また、現在実施中の主なプロジェクトは以下のとおりです。

・ショクエ灌漑地区稲作生産性向上プロジェクト(2011 年～2014 年度)

本プロジェクトは、上述のショクエ灌漑スキーム小規模農家総合農業開発計画のフェーズ 2 にあたる支援で、主として同地域の稲作の生産性向上を目的とするもの。

・ザンベジア州ナンテ地区稲作生産性向上のための技術改善プロジェクト(2011 年～2014 年)

水利組合の施設維持管理能力の強化、稲作技術の普及等を通じた稲作生産性の向上を目指すもの。

(了)